

オールドニュータウンにおける超低負荷型MaaS ～住民主体の送迎サービスとIoT センシング技術の連動～

住民主体による無償送迎サービス「らくらく送迎」の利便性向上及び運営側負担軽減のため、予約・配車システムを導入する。また、運行の安全性確保のため、団地内の主要経路上に歩行者感知センサーを設置し、事故防止情報を提供する。さらに事業継続性の観点から、買い物代行や見守りサービス等、地域生活サービスと連動した資金調達策を検証する。

協議会の 構成員	【幹事】池田市、(一社)伏尾台コミュニティ、(株)Momo、(一社)F・Link、(株)オリエンタルコンサルタンツ、大阪大学土井研究室、(一社)健康医療クロスインノベーションラボ		取組イメージ	
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> 「らくらく送迎」の利用者や利用目的の偏り 交通事故や新型コロナウイルスの感染等、「らくらく送迎」利用時における運転手・利用者双方の安全性に対する懸念 「らくらく送迎」の運営のための人員の確保及び資金の調達に関する懸念 		<p>MaaSを通じて提供しているサービスのイメージ</p>	
取組の概要	期間	2020年12月1日～2021年2月28日	<p>「らくらく送迎」の利用イメージ</p>	
	エリア	大阪府池田市伏尾台地域全域	<p>「らくらく送迎」乗車時の非接触検温</p>	
	MaaSシステム	MaaSアプリを独自に構築（webサービス及びGoogle Play）	検証結果	
	交通サービス	<ul style="list-style-type: none"> 「らくらく送迎」の予約アプリ（予約・配車等管理）の提供 高齢者向けの簡易予約デバイス（予約リモコン）の提供 路線バスへの乗継情報（時刻表、位置情報）の提供 歩行者飛び出し検知や運転手への安全情報の提供等、「らくらく送迎」の安全性の確保に資するサービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 実証期間中にらくらく送迎の登録者は119人→173人に増加しており、またアプリを通じた予約も、実験後半には徐々に利用が伸び、期間中40件の利用がなされた。 利用者・運営側ともにシステムに慣れてくることで、利便性向上や運営負担軽減を図ることが可能であったが、高齢者を中心に電話予約などアナログへのニーズは根強いことが分かった。 コロナの影響等により外出控えが生じており、健康意識への貢献は今後の検証課題と言える。 買い物代行や見守りサービスは、地域関係者間の連携体制は構築できたが、“稼ぐチカラ”としては規模が小さく、地域の取組維持に資する仕組みとするにはさらなる検討が必要である。 	
	交通以外のサービス	<ul style="list-style-type: none"> 「らくらく送迎」乗車時の非接触検温の実施 地域の商業者と連携した買い物代行サービスの実施 高齢者等にビーコンを配布しセンサーで移動履歴を把握する、「見守り・安否確認サービス」の提供 「らくらく送迎」車内での健康づくりコンテンツの提供 	今後の方向性	
検証内容	<ul style="list-style-type: none"> 「らくらく送迎」の地域貢献度（認知度、送迎者数、アプリ利用者数等）の検証 「らくらく送迎」運営側の負担軽減度（予約受付・管理、ドライバーのスケジュール管理・配車等の自動化・簡易化）の検証 外出頻度向上や健康意識強化等、住民の健康づくりへの貢献度の検証 「らくらく送迎」の運営資金の調達等事業の継続性の検証 		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の多い地域特性を踏まえ、アナログとデジタルのベストミックスにより、伏尾台に適したサービス形態の構築に取り組む。 また、持続可能な取組としていくため、エネルギーや通信など、地域内の様々な生活サービスと連動したマネタイズの仕組みを構築できるよう取り組む。 	